

出題のねらい

公募制推薦前期は、現代文2題（文学的文章、論理的文章）です。

㊦は、浅田次郎『プリズンホテル』からの出題です。赤坂クラウンホテルの看板シェフと言われた腕の良い料理人の服部正彦が、何故か山奥の温泉場のプリズンホテルに飛ばされましたが、そこで板前の梶平太郎に出会い、その腕に惚れて、他のホテルに移籍せず傍に居続けます。ある日、梶板長から伝説の包丁「千代鶴是秀」を使わせてもらい、「自分は厨房での苦勞が足りないので使いこなせない」と言って、梶から「おめえの腕は確かだ」と褒めてもらう場面です。

今回の出題は、服部正彦、梶平太郎、そして2人を取り巻きながら黙々と働く弟子たちのいる台所で、人々の心の動きと人物の描かれ方を読み取るものでした。出題内容としては、漢字や内容説明、格助詞の識別、言葉の意味や登場人物の性格を説明する問題、心情説明問題など、幅広く問いました。

㊧は、釘原直樹『人はなぜ集団になると怠けるのか』からの出題です。仕事をする際、集団で行う方が、1人で行うよりも1人当たりの業績が低下するという「社会的手抜き」について説明した文章です。文章における各段落の役割を適切に把握する力、また、各段落の内容を言葉に即して正確に理解する力を中心に問いました。文章を文脈に沿って丁寧に読み解いているか、問題に即した解答となっているかどうかによって、得点に大きな差が出ました。



【解答】(50点)

問一	a 左遷	b 万全	c 脅	
	d 神棚	e 密着		(各2点×5)
問二	I エ	II ウ	III イ	
	IV オ	V キ		(各2点×5)
問三	この梶平太郎という板前の腕に惚れたから。			(5点)
問四	エ			(3点)
問五	エ			(4点)
問六	弟子たち			(3点)
問七	千代鶴が、悠揚せまらざる気品と風格を持つ様子。			(5点)
問八	イ			(4点)
問九	服部の腕前が確かだと確信できたことと、「千代鶴」を初めて使った服部の感想が昔の自分と同じだったこと。			(6点)

【解説】

問一 漢字の書き取り問題。正答率は概ね50%程度でした。aは「遷」の字の表記が不正確。bは「万然」「万善」といった誤答が多く、正答率は3割程度。cは「脅かす」が「驚かす」になる誤答が見られました。dは「神棚」ではなく「上棚」がいくつかありましたが、まずまず正答率は高く、eについては正解多数でした。漢字の書き取りは必ず出す問題ですので、日常から新聞等を読む習慣をつけ、様々な漢字に触れておくこと、さらに正確に書く練習が必要です。

問二 空欄補充の問題。ことわざ、故事成語を選択式で答える問題ですが、よく正解を選んでいました。空欄Ⅲの「三顧の礼」などは難解な表現だったようです。故事成語やことわざは、漢文の授業や漢字テストなどで知識を増やしておくといいでしょう。

問三 理由説明問題。服部シェフが山奥のホテルにとどまっている理由は、傍線部の6行後に書かれていました。正答率は8割程度、よくできていました。

問四 格助詞「に」の識別問題。格助詞の「に」は名詞の下に来る時は、①場所をあらわす、②時をあらわす、③資格や地位をあらわす、④動作の目的、⑤動作の方向、⑥比較の対象、⑦状態の変化、⑧原因・理由、⑨受身や使役の対象、⑩並列、などの用法があります。傍線部の「に」は「～として」に変換できるので③。選択肢のアは時間なので②、イは「吹かれる」という受身の対象で⑨、ウは状態の変化で⑦。エは主役として使うの意なので、これが正解です。半分くらいできていました。

問五 内容説明問題。「手に合う」の意味を説明する問題です。アは「筋力」の問題ではないので不適當。イは手の大きさの話ではないので不適當。ウは「手に合わない」を「手に余る」と解釈しては説明になっていないので不適當です。ここは、「手」が文字通りの身体の部分の「手」のことではなく、包丁さばきの意味でとらえることが大切です。正解にたどり着いたのは半分くらいでした。

問六 内容説明問題。登場人物たちを把握し、梶が「小僧」と呼ぶ人物を絞り込みます。「弟子」では設問の「四字で」に合いませんし、「働く弟子」は「ども」の説明を外しています。

問七 内容説明問題。「何が」「どのような様子」かを説明するという指示に合っていない解答が目立ちました。

公募制推薦入試／国語(前期)

満点を取れたのは4割という難問になってしまいましたが、主語を正確に把握し、様子を問題文から抜き出すという、現代文を読解し説明するには必要な技術を身につけたいです。

問八 理由説明問題。直後に服部シェフが「厨房での苦勞が足らん」と述懐しているところに注目しましょう。「苦勞」＝「経験」が思いつけば正解を選びやすいです。正答率は高かったです。

問九 心情（理由）説明問題。設問に、2点をまとめるよう指示されているので、「服部の腕前が確かだと確信できた」喜びと、「服部の感想が昔の自分と同じだったこと」への喜びをまとめることが必要です。前半はよくまとめられていたのですが、後半は、「若い頃の自分と重ねた」「自分を思い出した」といった、的を射当てていない解答が見られました。梶板長の、「おっ、こいつは俺と同じ事を言っている」といううれしさを説明することが大切です。

☐

【解答】(50点)

問一	a 浅薄	b 埋没	c 欠如	
	d 否	e 貢献		(各2点×5)
問二	I ア	II ウ	III エ	IV イ
				(各2点×4)
問三	A イ	B エ	C ア	
	D オ	E ウ		(各2点×5)
問四	集団			(3点)
問五	実験室の、衝立をはさんだ被験者Bの隣で、 ヘッドフォンと目隠しを装着して、 音を出さずに黙っている。			(5点)
問六	仕事			(3点)
問七	イ			(3点)
問八	質が問われる課題は明確な外的基準がないことが多い(から。)			(5点)
問九	ウ			(3点)

【解説】

問一 漢字の知識を測る問題です。誤答が最も多かったのがaで、「浅」を「千」「鮮」、「薄」を「白」「泊」とする例が多く見られ、6割程度の正答率でした。cでは「如」を「序」、dは「稲」、eは「貢」を「更」、「献」を「敵」とする誤答が多かったです。

問二 言葉の知識、語彙力を測る問題です。正答率は低く、特にII、IIIに誤答が目立ちました。仮に初めて見る言葉であっても、選択肢をよく見比べ、文脈の中でどれが最もふさわしい言葉なのか、じっくり考えてみて下さい。

問三 論理的文章によく出題される、空欄に接続詞を補う問題で、思考力と判断力が求められます。前後の文脈がどのような関係にあるか、その関係を繋ぐにはどの接続詞がふさわしいか、この2つをよく考える必要があります。正答率は高めでした。

問四 空欄補充の問題です。文章の主旨を的確につかむ思考力、その主旨に最もふさわしいキーワードを選び出す判断力が求められます。正答率は高く、「会議」とする誤答が1割程度ありました。

問五 記述式問題です。本文を正確に読み解く思考力と、それを的確にまとめる表現力を測ります。記述式問題では、問題文の条件に注意しましょう。条件は、「被験者Aは」「どこで」「どのような状態で」「何をしているか」、さらに「被験者Bとの位置関係に言及しながら」「本文中の語句を用いて」と、

6つあります。これらの条件のうち、どれか1つでも不備があれば減点対象です。多かった減点は、「どこで」にあたる「実験室」、「どのような状態で」にあたる「目隠し」（「ヘッドフォン」のみに言及）のないものでした。また、「本文中の語句」を自分の言葉で不適當に言い換え、減点となる例もありました。完全解答は1割ほどでした。

します。エは、本文の主旨と正反対です。

問六 文章の構成と主旨を理解した上で、下線部と同じ意味の語句を抜き出す、思考力・判断力を測る問題です。誤答で多かったのは、「次元」と「要因」です。どちらも当てはまりそうですが（「要因」は「傍線部以降」という問題文の条件に不適合）、下線部を含む一文だけでなく、段落レベル、文章レベルまで視野を広げて語句を選ぶ必要があります。下線部の段落では、「チアリーダーの発声」「綱引き」、その後の段落では「家を建てる」「オーケストラ」等が「課題」として挙げられていますから、2つの誤答例はどちらも不適當です。

問七 本文の構成を正確に読み取り、文脈にふさわしい選択肢を選び出す、思考力・判断力を測る問題です。段落をよく読み、論理の流れに注目しましょう。「このような社会的な手抜きはどのような課題で生じやすい」のか、という問いかけの後、「チアリーダー」や「綱引き」は、「多数の人」が力を合わせ、「個々人」の力は集団の中に埋もれてしまう課題であると説明され、「集団の課題はこのようなものばかりではない」と述べられています。つまり、これら以外にも様々なタイプの課題がある、ということです。米国のスタイナーは、そうした様々な課題を3つに「分類」しました。様々な課題を「分類」（「整理」）する、という文脈に合致する選択肢は、イのみです。正答は半数に止まりました。

問八 抜き出し問題です。本文の意図を正確に読み取れているかどうか、思考力・判断力が問われます。正答率は高かったのですが、抜き出しが不正確で減点された解答がありました。

問九 本文の内容を正確に読み取れているかどうかを測る問題です。正答率は低く、2、3割でした。アについて、本文は「会議が仕事時間に占める割合が大きい」（第1段落）、それほど会議が重要であるにも関わらず、会議中に手抜きが発生する（第2段落）、という文脈であり、会議の割合と手抜きをする社員数の関係については、第1・2段落では述べられていません。イは、本文後半の「集団の課題はこのようなものばかりではない」とあるのに矛盾